

tuv.com munication

2012年 第1号

今月のトピック

1 製品安全

テュフ ラインランド ジャパン、
西日本の試験施設を拡充 - p.2

2 製品安全

ブラジル・アルゼンチンの
製品安全認証 - p.3

3 製品安全

特定無線設備の技術基準適合証明
等に関する規則の一部改正 - p.5

4 製品安全

テュフ ラインランド、
日本政府より防爆構造電気機械器具に対する
指定外国検査機関として指定されました - p.6

5 製品安全

日本の S マーク認証 - p.7

6 食品安全

特別寄稿 - GFSI 承認の国際認証規格について① - p.8

7 お知らせ

テュフ ラインランド オリジナル
カレンダー - p.9

8 コラム

2012年の干支 壬辰(みずのえたつ) - p.10

9 セミナー・展示会情報 - p.11

1 テュフ ラインランド ジャパン、 西日本の試験施設を拡充

再生可能エネルギーなどの新技術に対する 試験需要の増加に対応

テュフ ラインランド ジャパンは、大阪市東成区に試験施設(仮称:テュフ ラインランド 関西テクノロジーセンター)を新設、2012年4月より操業を開始します。総床面積2,500平方メートル超の3階建の新ラボでは主に、リチウムイオン電池、電気二重層コンデンサなどのRESS(再生可能エネルギー貯蔵システム)や、太陽光発電(PV)システムを対象とした各種試験に対応します。



新試験施設外観(大阪市東成区)

テュフ ラインランドは、グローバル戦略として、太陽光や風力、燃料電池などの再生可能エネルギー技術の試験や、電気自動車関連の各種サービス拡充に向けた包括的なインフラ整備を進めており、新施設はその一環として計画されました。新エネルギーに対応する試験施設を新設することは、政府による抜本的なエネルギー政策見直しにも対応しています。また、大阪では現在、環境に配慮したエコ事業の育成や推進を図る取り組みが進められており、テュフ ラインランド ジャパンが関西に新設する試験ラボは、重要な役割を担うことが期待されます。

テュフ ラインランドは、製品安全認証機関として、メーカー各社に安全試験や性能試験サービスを提供しています。テュフ ラインランドがめざすのは、新しい技術による製品が、長期間にわたって安全であることを評価、認証し、各種産業や社会に貢献することです。新試験施設では、標準的な試験に加え、R&D やベンチマーキング分析、カスタマイズ試験など今まで以上に多様なサービスの提供が可能となります。

新しいラボは2つの大きな機能があります。ひとつはPV試験施設、もうひとつは電池試験施設です。

新ラボのPV試験施設は、高機能の環境試験室を備えており、極限的な温度・湿度条件下での太陽光発電モジュールや各種コンポーネントの試験が可能です。テュフ ラインランド ジャパン 太陽光発電評価センターのセンター長 ステファン・キーンは「開発されるエネルギーシステムの複雑化が進み、電池技術と太陽光発電技術の関連性が増している中、両方の試験ノウハウを統合しているのがこのラボの特長です」と説明しています。

また、新ラボの電池試験施設は、進化し続ける電池エネルギーに対応する最新の安全試験設備を装備しており、電気自動車やハイブリッド車、電力貯蔵システム、高エネルギーデバイスなど、民生用・産業用を含めた幅広い電池に対して試験サービスの提供が可能となります。また、過酷条件試験装置は、高いレベルの安全機能を備え、異常条件や異常環境下における試験サンプルの反応を確認することができます。これにより、一定状況下における設計上の脆弱点を特定することが可能となります。テュフ ラインランド ジャパンの電池試験所責任者 マーセル・ブリカーツは「安全試験設備では、スクラバーや火災検知・消火装置、各種センサー、監視システムなど徹底的な安全強化策を施しています。試験環境の安全性を確保した上で、今までよりさらに過酷な条件下での試験など、お客様の各種ニーズに対応します」と述べています。

2012年4月の本格稼働に向け、1月から一部の試験(電池試験施設内の充放電性能試験)を開始します。

お問い合わせ

カスタマーサービスセンター
Tel: 045-470-1850
E-mail: info@jpn.tuv.com

2 ブラジル・アルゼンチンの 製品安全認証

日本機械輸出組合(JMC)が調査レポート発行、 セミナー開催

ブラジルでは、INMETRO(国家度量衡標準化工業品質院)令第 371 号により、従来規制されていなかった多くの家庭用電気製品に対する安全認証制度(強制認証)が 2011 年 7 月 1 日に開始されました。2011 年 8 月には INMETRO 令第 328 号により、家庭用と業務用の区別が不明確な電子レンジ・食器洗い機など一部の製品の強制化が 2012 年 7 月に延期されました。また、無線・通信機器認証制度については、ANATEL(国家電気通信庁)による製品の 3 つのカテゴリーに応じた製品検査・工場検査などが義務付けられました。さらに、医療電気機器については、INMETRO 安全認証取得後に ANVISA(国家衛生監督局)への登録が義務付けられており、2011 年 6 月に検査などが厳格化されています。

一方、アルゼンチンでは、電気製品全般について、IRAM(アルゼンチン標準化協会)による S マーク安全認証制度として、「認証」(型式試験・工場検査)、「型式認証」(型式試験)、「ロット認証」(出荷ごとのサンプル抜取試験)の 3 つの認証方法が実施されています。また、無線・通信機器についても CNC(国家通信委員会)による「認証」(CNC 規格に基づく製品検査)、「認可」(CNC 規格がないものが対象)、「許可」(販売を伴わない個人の使用などが対象)の 3 つの認証方法が実施されています。

調査レポート「ブラジル・アルゼンチンの製品安全基準認証調査レポート」

日本機械輸出組合*の基準認証委員会(委員長:梶屋 俊幸氏 パナソニック株式会社)は、これらブラジル・アルゼンチンの製品安全基準認証制度の実態と動向に関する調査をテュフ ラインランド ジャパンに委託し、その結果を発刊しました。ブラジルおよびアルゼンチンにおける 1.電気製品安全認証制度、2.無線・通信機器、医療機器認証制度、3.機械および自動車認証制度、4.その他(製品エネルギー効率規制の概要、対象製品、マーク要求事項など)について詳細をまとめています。

「ブラジル・アルゼンチンの製品安全基準認証調査レポート」

同書は、下記ウェブサイトから購入可能です。

<http://www.jmcti.org/publication/select2.php?id=828>

「ブラジル・アルゼンチンの製品安全セミナー」

また、同組合は、このレポートの内容と認証に関する実務を詳細に解説した「ブラジル・アルゼンチンの製品安全セミナー」を 2011 年 12 月 5 日に開催しました。テュフ ラインランド ジャパンからは、レポートの執筆に携わった製品部 電気製品課 シニアエキスパートの宮浦 晴雄が講師を務め、ブラジルおよびアルゼンチンの基準認証制度の現状と動向について解説しました。

*日本機械輸出組合(JMC: Japan Machinery Center for Trade and Investment)は、1952 年に通商産業大臣(現経済産業大臣)の許可で設立された非営利団体です。公益法人的な性格を持ち、約 270 社の加盟組合員に、広範なサービスを提供しています。

南米の認証について

【ブラジル】

家電製品: 対象品目製品をブラジル国内に流通・販売する場合は、INMETRO の認証の取得が必須です。2011年7月以降、全ての家電製品について、国際規格 IEC 60335-2-x との適合性の試験が要求されています。認証書の有効期限は3年です。セキュリティ検査を含む、年に1回の検査を受けることにより、延長も可能です。テュフ ラインランド ブラジルは、ブラジル国内の安全認証機関として指定されており、INMETRO 認証が可能です。

電気通信: 電気通信製品は、公認専門機関の認証および登録が必要です。国家電気通信機関である ANATEL がこれらの手続きを実施しています。テュフ ラインランド ブラジルは、ブラジル国内で最初に認定を受けた ANATEL の認証機関です。現地での代理人による承認申請もテュフ ラインランド ブラジルがサポートします。

医療機器: ブラジル市場に出る医療機器は全て INMETRO 認証と厚生省管轄下にある政府機関である ANVISA の登録が必要です。



強制認証マーク:

スイッチ、プラグ、コンセント、フレキシブルコード、ブレーカー、医療機器、防爆機器、磁気/電子安定器などの製品に必須のマークです。白物家庭用電気製品は、今回強制品目となっています。



任意認証マーク:

該当製品に対して、第3者機関が安全規格に沿って評価するものです。AV機器、IT機器は、任意認証制度の範疇になります。差別化のために、この任意認証を取得することもできます。

【アルゼンチン】

アルゼンチンの電気製品の安全についての規制は、Argentina's Resolution 92/98が発行された後、2001年4月より、工場検査を伴う適合マーク証明(第3段階)に移行されました。適合マークの表示には、アルゼンチン政府により認定された認証機関の証明が必要で、製品試験と工場検査が実施されます。テュフ ラインランドのアルゼンチンオフィスは、1999年12月にOAA(アルゼンチン認定機関)より製品安全分野における国内認証機関として認定され、この資格に基づき、アルゼンチンの安全マーク「アルゼンチン S マーク」を発行しています。



急激に変化する国際市場で優位に立つには迅速な対応が必要とされます。テュフ ラインランドはグローバルネットワークを活かし、ワンストップで効率的な国際認証サービスをご提供しています。

お問い合わせ

カスタマーサービスセンター

Tel: 045-470-1850

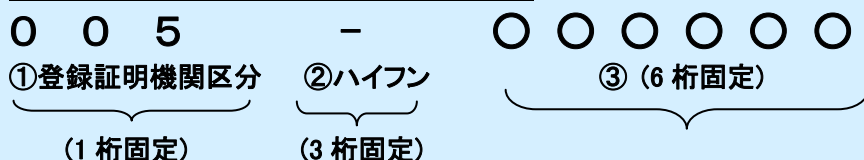
E-mail: info@jpn.tuv.com

3 特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則の一部改正

総務省令で定める特定無線設備(注 1)は、規定された技術基準への適合が求められています。技術基準に適合していない設備は、販売、使用することができません。

2011年12月16日、「特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則」の様式第7号が一部改正され、同日付で工事設計認証番号の新制度が開始されました。

新制度による工事設計認証番号の番号構成



- ① 最初の3文字は総務大臣が別に定める登録証明機関の区別(変更なし)
- ② 4文字目はハイフン
- ③ 5文字目から10文字目の6桁はアラビア数字となり100001から999999の範囲(注2)

番号構成以外の変更点

- ひとつの特定無線設備に対して、2種類以上の無線種別を取得する場合、ひとつの工事設計認証番号にまとめることが可能
 - 軽微な変更や、工事を伴わない変更で適用要件を満たす場合、同一認証番号の発行が可能
- ※ 同一認証番号の適用要件詳細については下記総務省のガイドラインを参照
<http://www.tele.soumu.go.jp/resource/j/equ/tech/faq/231216.pdf>

その他

- 工事設計認証番号<電波法第38条の2の2第一項第一号または第二号の事業区分>の新規/変更(同番を除く)認証において、旧制度の工事設計認証番号の有効期限は平成24年6月16日までです。
- 工事設計認証番号<電波法第38条の2の2第一項第三号の事業区分>については、今回の一部改正では今のところ新制度適用外です。この区分の新規/変更(同番を除く)認証では、旧制度の工事設計認証番号を適用します。

テュフ ラインランド ジャパンは、特定無線設備の登録証明機関として総務省に登録されています。すべての特定無線設備に対して、技術適合証明(電波法 第38条の6)および工事設計認証業務(電波法 第38条の24)を実施しています。

(注1) 特定無線設備：携帯電話機、衛星通信用端末、無線LAN、Bluetooth搭載機器、PHS、コードレス電話等、および各種無線通信基地局等
(注2) テュフ ラインランド ジャパンでは、アラビア数字を採用。規則では、アラビア数字もしくは英字、またはこれらの組み合わせにより定めるものとしています。

お問い合わせ

カスタマーサービスセンター
Tel: 045-470-1850
E-mail: info@jpn.tuv.com

4 テュフ ラインランド、 日本政府より防爆構造電気機械 器具に対する指定外国検査機関 として指定されました

テュフ ラインランド ジャパンは、新たに「日本の防爆検定向けサービス」を開始しました。これは、11月25日付けで、テュフ ラインランド インダストリー サービス GmbH(ドイツ)が、日本の防爆構造電気機械器具に対する指定外国検査機関に指定されたことによるものです。

これまで海外の防爆関連機器メーカーが日本へ防爆製品を輸出する場合、直接日本の産業安全技術協会(TIIS)に申請し、防爆検定認証を取得する必要がありました。今回、テュフ ラインランドが指定外国検査機関に指定されたことにより、今後はテュフ ラインランドでテストレポートを取得し、テュフ ラインランドを通して防爆検定認証の申請、取得が可能となりました。これにより、ATEX 認証をもとに日本市場へ進出するメーカーにとって、認証申請にかかる時間を大幅に改善されます。

また日本のメーカー、輸出入業者にとっても、テュフ ラインランドの発行する1つのテストレポートを、欧州市場向けATEX認証、日本市場向け防爆検定認証、両方の認証申請に利用することができるようになります。

防爆指令は、爆発する危険のある場所で使用される、全ての電気、非電気装置、機械、産業用設備に適用されます(例:安全装置、制御装置や調整装置など)。テュフ ラインランド ジャパンは、これら装置の機能安全評価についても対応しています。

機能安全とATEX関連機器

電気・電子・電子式(E/E/PE)システムが安全機能をもって使用される際、防爆ではATEXおよび機能安全の規格が適用されます。テュフ ラインランドでは、これら両方の分野についてサービスを提供しています。最も重要な課題のひとつにあげられるリスクレベルの定義についても、機能安全規格に基づき、経験豊富な専門家が対応いたします。



お問い合わせ

カスタマーサービスセンター

Tel: 045-470-1850

E-mail: info@jpn.tuv.com

5 日本の S マーク認証

電気製品認証協議会(SCEA)が推奨する S マーク認証制度についてご紹介します。

S マークは、電気用品安全法を補完し、より一層電気製品の安心安全を高めるための第三者認証制度です。SCEA 推奨の下、SCEA のメンバーである認証機関が、電気製品を対象として 1995 年に開始しました。テュフ ラインランド ジャパンは、2006 年から S マーク認証制度に認証機関として参加すると共に、SCEA の会員となっています。S マークは、第三者認証機関が、製品評価および工場の品質管理調査を実施し、安全性を認証した製品であることを示すものです。

SCEA は、販売店などでの広報活動、事業者向けセミナー開催、市場での抜き取り調査、追加基準作成、官庁・関係業界などとの意見交換、S マーク普及率実態調査などを通じて、S マークの普及、製品安全の確保に取り組んでいます。S マークは法律で義務付けられたものではありませんが、電気用品安全法対象製品の場
合、技術基準適合義務などに関わる届出事業者の自主活動ツールの一つとして活用できるよう制度作り
をしています。なお、現在、店頭で販売されている主な電気製品(テレビ、冷蔵庫など)の約 70%が S マークを取
得しています。

S マークの対象となる製品は、電気用品安全法の対象製品 455 品目* (特定電気用品 116 品目、特定電気用品以外の電気用品 339 品目)の他、多様な電気製品およびその部品などです。S マークの認証基準は、電気用品安全法で指定の電気用品の場合、電気用品安全法の技術基準ですが、電気用品安全法の規制外の製品については、S マーク認証機関が定める、または認める JIS、IECなどを基準としています。また、S マーク認証には、認証製品が常に同じ品質で安定して生産できる体制にあり、適切に生産していることを確認するため、初回工場調査、定期工場調査、初回ロット検査などが義務付けられています。

*平成 24 年 7 月 1 日に LED ランプ、LED 電灯器具が追加され、457 品目となります。



SCEA 推奨の S マーク
テュフ ラインランド ジャパンの認証を受けた製品へ表示するマークです。

電気製品認証協議会ウェブサイト:
<http://www.s-ninsho.com/index.html>

電気製品認証協議会は 3 月に東京と大阪で製品安全特別セミナー「製品事故を考える」を開催します。
詳細とお申込みはこちら:
<http://www.s-ninsho.com/seminar2011.html>

テュフ ラインランド ジャパンは、電気製品にかかわらず幅広い製品に利用できる独自の S マーク認証業務も提供しています。

お問い合わせ

カスタマーサービスセンター
Tel: 045-470-1850
E-mail: info@jpn.tuv.com

6 特別寄稿 - GFSI 承認の国際認証規格について①

出典：ビバリッジ ジャパン No.359 2011 年 12 月号
筆者： テュフラインランド ジャパン株式会社 製品部食品安全グループ 岡田綾子
IFS、FSSC 22000、ISO 9001、ISO 14001、ISO 22000 主任審査員

本解説は 2 回に分けてご紹介します。

1. GFSI の設立経緯

GFSI (Global Food Safety Initiative:国際食品安全イニシアチブ)は、欧州を拠点に世界的な小売業団体として 1953 年から拡大していた CIES(国際食品小売チェーン委員会=2009 年に TCGF に名称変更)の食品安全を担当する下部組織として 2000 年に設立された。その当時 EU では BSE、ダイオキシン問題の発生、遺伝子組換え食品の取り扱いに関する議論など、食品安全に対して抜本的対策が迫られており、「食品法の一般原則に関する緑書」(1997 年)および「食品安全白書」(2000 年)が発行され、その概念に基づき、2002 年から 2004 年にかけて EU 食品法体系の大改正が行なわれた。

そういったなかで、民間団体である GFSI は、サプライチェーンにおける透明性・効率性の向上を図り、世界の消費者に安全な食品を保証するために、食品安全規格のハーモナイゼーションを進める機関として活動を開始した。その具体的な仕組みとしては、まず GFSI は既存の食品規格を GFSI の基準書に基づきベンチマーク(基準評価)し、GFSI 承認規格として公表する。サプライヤーは、GFSI 承認規格のうち任意の規格で第三者認証を受ける。そして顧客組織は、直接サプライヤーを監査することなく、規格スキーム・オーナー(たとえば、BRC:英国

図 1 | GFSI 認定規格

GFSI 認定スキーム

出典：GFSI ホームページ

製造業スキーム：

BRC Global Standard Version 5
Dutch HACCP Option B
FSSC 22000
Global Aquaculture Alliance BAP Issue 2(GAA Seafood Processing Standard)
Global Red Meat Standard Version 3
International Food Standard Version 5
SQF 2000 Level 2
Synergy 22000

第一次生産業スキーム：

CanadaGAP
GlobalG.A.P IFA Scheme V3
General Regulations:V3.1_Nov09(all scopes)
Fruit and Vegetables:3.0-2_Sep07
Livestock Base:3.0-4_Mar10
Aquaculture-V1.02_March10
SQF 1000 Level 2

第一次生産業および製造業スキーム：

PrimusGFS

小売協会)がデータベース上で公開している当該サプライヤーのデータを確認するというものである。

この仕組みは瞬く間に世界中へと広がっていき、2005年に発行されたISO22000(食品安全マネジメントシステム要求事項)の認証が世界的に伸び悩む中で、GFSI承認規格は世界の食品規格認証市場を席卷していった。

GFSIを運営するCIESは2009年、The Consumer Goods Forum(TCGF)として小売業のみならず製造業を含む70カ国、650企業を超える組織で構成される団体へと発展した。下部組織であるGFSIは理事会、諮問委員会、専門家によるワーキンググループを擁する機関となり、それまでISO(国際標準化機構)が独占していた民間組織のための食品マネジメントシステム規格ハーモナイゼーションの舞台において、ISOと主役の地位を二分するかたちとなっていった。現在GFSIへの参画表明をしている組織は、The Coca-Cola Company、Cargill、イオングループなど世界的な企業群であり、GFSIによって基準評価・認定された規格は、製造業スキーム(8規格)、第一次生産スキーム(3規格)、第一次生産・製造業スキーム(1規格)となっている(図1)。

2011年1月、75年ぶりの大改正となったアメリカ食品安全強化法では、輸入食品への第三者認証を要求しており、その制度詳細は今後決定されていくとされている。この制度が策定されるに至った経緯において、また今後、制度詳細が決定されていく上で、GFSI規格が与えた、また今後与える影響は大きいものと考えられ、特にアメリカへの輸出企業は、この動きを注視する必要があると言える。

次号では「2.主要GFSI承認規格の特徴」、「3.GFSI承認規格取得による効果と食品規格の今後の方向性」を掲載します。

お問い合わせ

カスタマーサービスセンター

Tel: 045-470-1850

E-mail: info@jpn.tuv.com

お知らせ

7 テュフ ラインランド オリジナルカレンダー

テュフ ラインランド ジャパンのHPでは、テュフ ラインランド ジャパンのオリジナルカレンダーに掲載されているマンスリークイズ、解答がご覧いただけます。ぜひご覧下さい。

<http://www.tuv.com/jp/calendar2012>

カレンダーをご希望の方は、会社名、部署名、お名前、住所、電話番号をご記入の上、pr@jpn.tuv.comまでお問い合わせ下さい。

8 2012年の干支 みずのえ たつ 壬辰

今年の干支は辰年、十二支では5番目ですが、十干とあわせた六十干支では29番目のみずのえ たつ 壬辰です。

辰の字は本来草木が成長して整った状態になることを示す漢字だったのが、覚えやすくするため神話の動物の意味をあてたとされています。十二支の中では唯一の想像上の生き物ですが、実際の生き物にこれに近い動物はいるのでしょうか。

上野動物園には「ドラゴン」がいます。それは Central Bearded Dragon、フトアゴヒゲトカゲです。園ではこの「竜」の大パネルを背景にした記念撮影コーナーが1月末まで設置中です。

http://www.tokyo-zoo.net/topic/topics_detail?kind=news&link_num=20503

おとなしいドラゴンの生息地はオーストラリア中央部、日本にも輸入されペットとして飼う愛好者も近年増加中のことです。あなたの身近にもオーナーがいるかもしれません。全長40センチほどでやや太めで、トゲ状のうろこが特徴。怒ったり興奮したりすると、のどの周りが黒味を帯びて膨らみ、「アゴヒゲ」に見えるので名前の由来になっているようです。爬虫類は触ってみればわかりますが、すべすべして柔らかいものが多いようです。

証券業界では、「辰巳天井」といい株高を期待する格言があります。下記の1988年に東証平均株価が過去最高の空前の活況が出現しています。バブル景気、バブル経済の年でした。辰年の代表的な事象を記述します。

1952年(昭和27年)

エリザベス女王2世即位(戴冠式は翌53年)
対日平和条約(サンフランシスコ講和条約)発効
ヘルシンキ五輪の戦後初参加(日本 金1・銀6・銅2)

1964年(昭和39年)

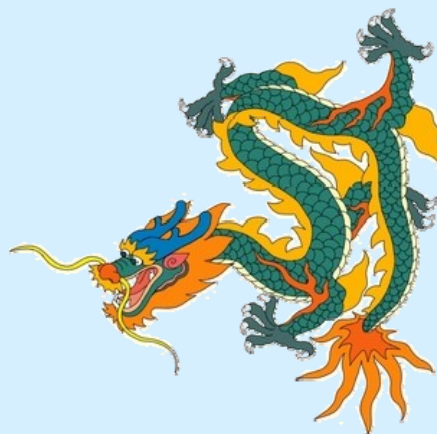
東京モノレール/東海道新幹線開業
第18回オリンピック東京大会開催(日本 金16・銀5・銅8)
ビートルズ初のアメリカ公演(日本来日は66年)

1976年(昭和51年)

ロッキード事件、前田中首相逮捕
モントリオール五輪開催(日本 金9・銀6・銅10)
戦後生まれ、総人口の半数を突破

1988年(昭和63年)

リクルート事件
青函トンネル開通、連絡線廃止
瀬戸大橋開通
東証平均株価がそれまでの過去最高値を記録(史上最高値は1989年12月29日の3万9,857円44銭)
ソウル五輪開催(日本 金4・銀3・銅7)



2012年(平成24年)はロンドンオリンピック開催の年。日本選手団の活躍はいかに？皆様も上述の年の家族の思い出、出来事、映画/TV ヒット曲など作成してみたいかがでしょうか。いずれにせよ、今年が良い年でありますよう祈念いたします。

9 セミナー・展示会情報

エネルギーマネジメントシステム ISO 50001入門セミナー

内容	ISO 50001 は、エネルギー管理の枠組みを定めており、エネルギー消費に大きく影響を及ぼすと言われています。テュフ ラインランドは、エネルギー効率改善を検討されている企業の方に、ISO 50001 規格を紹介するセミナーを開催します。
日時・会場	2012年2月3日(金) 13:30-17:30 テュフ ラインランド ジャパン 新横浜本社 会議室 2012年3月2日(金) 13:30-17:30 テュフ ラインランド ジャパン 西日本地域担当オフィス 会議室 2012年5月15日(火) 13:30-17:30 浜松アリーナ 第一会議室

テュフ認定エンジニア・イントレーニング(TAEIT)コース

内容	テュフ認定エンジニアとは、テュフ ラインランド ジャパンが、特定の規格・装置に対する確かつ客観的な判断と評価が出来ると認めた技術者の方を認定し、資格を与える制度です。資格を取得されたエンジニアの方々は、装置の安全設計・製品安全審査等の分野にその知識を生かして活躍されています。
日時・会場	横浜会場:2012年2月13日(月)~2月15日(水)の3日間、認定試験 2012年2月23日(木) 会場:テュフ ラインランド ジャパン テクノロジーセンター(横浜市都筑区) 大阪会場:2012年2月20日(月)~2月22日(水)の3日間、認定試験 2012年2月23日(木) 会場:テュフ ラインランド ジャパン 西日本地域担当オフィス 会議室

機能安全エンジニア資格(FSE)コース - IEC 61508

内容	電気/電子/プログラマブル電子安全関連システムの機能安全 機能安全規格は初期からの安全設計を要求しており、当コースの受講で設計・開発に関する要求事項を理解できます。機能安全の概念を理解することで、IEC 61508 に適合する部品の選定をはじめ、機器又はシステムの設計を、より確実・専門的に行うことが可能になります。
日時・会場	2012年2月21日(火)-24日(金) 新横浜

PV EXPO 2012 第5回国際太陽電池展

内容	テュフ ラインランド ジャパンのワンストップ認証サービスは、日本国内はもちろん欧州、北米そして中国市場へのアクセスを可能とします。また、太陽電池モジュールの出力測定・校正サービス、信頼性試験サービス、周辺機器の試験・認証、さらには太陽電池システムの設置に関する教育・コンサルタントまで、太陽光発電に関わるあらゆる面でお手伝いを致します。
日時・会場	2012年2月29日(水)-3月2日(金) 東京ビッグサイト 東展示場 当社ブース:E38-12

PV EXPO 2012 第5回国際太陽電池展 出展者セミナー

『国際市場におけるPV製品の差別化のポイント』

内容	PV業界のエキスパートとして、最新の評価方法とリスクを最小限に抑えるための戦略について解説します。
日時・会場	2012年2月29日(水) 15:00-16:00 東京ビッグサイト 東展示場 B会場

バッテリージャパン 2012 第3回国際二次電池展

内容	リチウムイオン電池をはじめ、バッテリーに関する安全試験や認証サービスを紹介します。また、出展者セミナーでは電気自動車に関する国際基準について最新情報をお届けします。
日時・会場	2012年2月29日(水)-3月2日(金) 東京ビッグサイト 西展示場 当社ブース:W3-71

バッテリージャパン 2012 第3回国際二次電池展 出展者セミナー

『国際基準UN/ECEの改訂 - 電気自動車およびRESSの安全評価 -』

内容	電気自動車の国際基準UN ECE-R100の改訂に関し、2012年1月(予定)に行われる作業部会の結果をご報告します。
日時・会場	2012年3月2日(木) 15:00-16:00 東京ビッグサイト 西展示場 C会場

機能安全エンジニア資格(FSE)コース - ISO 26262(自動車の機能安全)

内容	Automotive - System Design acc. to ISO 26262 and IEC 61508 機能安全規格は初期からの安全設計を要求しており、当コースの受講で設計・開発に関する要求事項を理解できます。機能安全の概念を理解することで、ISO 26262 に適合する部品サプライヤの選定をはじめ、機器またはシステムの設計を、より確実・専門的に行うことが可能になります。2011年11月の正式発行以来、初めての開催です。
日時・会場	2012年3月12日(月)-16日(金) 新横浜グレイスホテル

詳しくはセミナーページ http://www.tuv.com/jp/training_and_education.html をご覧ください。

最寄のテュフ ラインランドへお問い合わせ下さい

カスタマーサービスセンター

東日本地域 TEL: 045-470-1850
西日本地域 TEL: 06-6355-5400
EMAIL: info@jpn.tuv.com

カスタマーボイス

222-0033
横浜市港北区新横浜 3-19-5 新横浜第二センタービル
TEL: 045-470-1850 FAX: 045-470-8055
EMAIL: hotline@jpn.tuv.com

西日本地域担当オフィス

530-0044
大阪市北区東天満 2-9-1 若杉センタービル本館 16F
TEL: 06-6355-5777 FAX: 06-6354-8636

大阪ラボラトリー

530-0044
大阪市北区東天満 2-9-1 若杉センタービル本館 16F
TEL: 06-6355-5777 FAX: 06-6354-8636

本 社

222-0033
横浜市港北区新横浜 3-19-5 新横浜第二センタービル
TEL: 045-470-1860 FAX: 045-473-5221

テクノロジーセンター(GTAC)

224-0021
横浜市都筑区北山田 4-25-2
TEL: 045-914-3888 FAX: 045-914-3377

太陽光発電評価センター(SEAC)

224-0033
横浜市都筑区茅ヶ崎東 4-5-24
TEL: 045-271-3508 FAX: 045-271-3525

九州オフィス

814-0001
福岡市早良区百道浜 2-1-22 福岡 SRP センタービル 10F1001 号室
TEL: 092-845-5431 FAX: 092-845-5310

九州 EMC ラボラトリー

822-0031
直方市大字植木 1245-2 直鞍産業振興センター ADOX 福岡内
TEL: 0949-28-9345 FAX: 0949-28-9346

ニュース送付に関するお問合せは、新横浜本社 澤 (pr@jpn.tuv.com) までお寄せ下さい。
皆様のご意見、ご要望をお知らせいただければ幸いです。

受信いただくメールソフトによっては、稀ですが、配信メールに文字化けが発生いたします。
文字化けの際には、文字エンコードを Shift-JIS もしくは Unicode(UTF8)へ変更下さい。
恐れ入りますが、ご理解・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

編集責任者 澤 操、吉家 由貴子、井田 美穂 新横浜本社

◆ テュフ ラインランドで認証を取得された企業は、TUVdotCOM ウェブサイトにて認証情報をご覧頂けます。

<http://www.tuv.com/jp/tuvdotcom.html>

本誌掲載記事を転載希望の方はご連絡下さい。